保管用

Tajima

ご使用前に必ずお読みください。

厚生労働省「安全帯の規格」適合品

タジマ安全帯

ハーネス・ハーネス用ランヤード 取扱説明書

1版

このたびは、《タジマ安全帯ハーネス・ハーネス用ランヤード》をお買い上げいただきありがとうございます。本品は、建設工事現場・工場等の高所作業に用いる安全帯です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。

⚠危険・⚠警告・⚠注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

また、より安全なご使用のため、産業安全研究所技術指針「安全帯使用指針」(NIIS-TR-No.37(2004))の併読をお奨めいたします。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社 HP にも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HP アドレス：http://www.tajimatool.co.jp

(HP トップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

この安全帯は1本つり専用です。

●目次

1.用途 …… 2

2.ハーネス本体の構造及び各部名称… 2〜3

3.装着方法 …… 4

3-1 SEGハーネスとSEG胴当てベルトの取付け方法 …… 5

3-2 胴ベルトの取付け方法 …… 5

3-3 装着方法 …… 6〜7

3-4 バックルの使用方法 …… 8

3-5 ベルトの長さ調節 …… 9〜10

4.ハーネス用ランヤードの構造及び各部名称 …… 11

5.ハーネスへのハーネス用ランヤードの取付け方法 …… 12

5-1 フックの操作方法 …… 12

5-2 フックの使用方法 …… 12

6.必ずお守りください（使用上の注意事項） …… 13〜18

7.点検と廃棄の基準 …… 19〜21

8.保管と手入れのしかた …… 22

9.交換の目安(耐用期間) …… 22

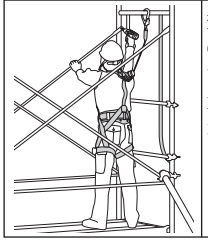
10.性能 …… 23

11.お客様相談窓口 …… 24

1. 用　途

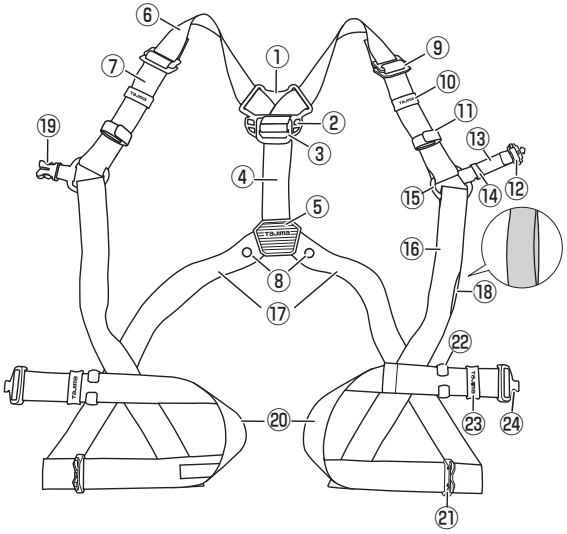
このランヤードは1本つり※専用です。
その使用例および用途は次のとおりです。
その他の用途には使用しないでください。

※1本つり
図のようにランヤード先端のフックを構造物に掛けて、あるいはランヤードを回し掛けして構造物から人体までがランヤード1本でつながっている状態をいいます。

使用例	用　途
	建設工事などの足場のある高所作業現場で、ランヤードに体重をかけないで作業ができる場合に使用します。

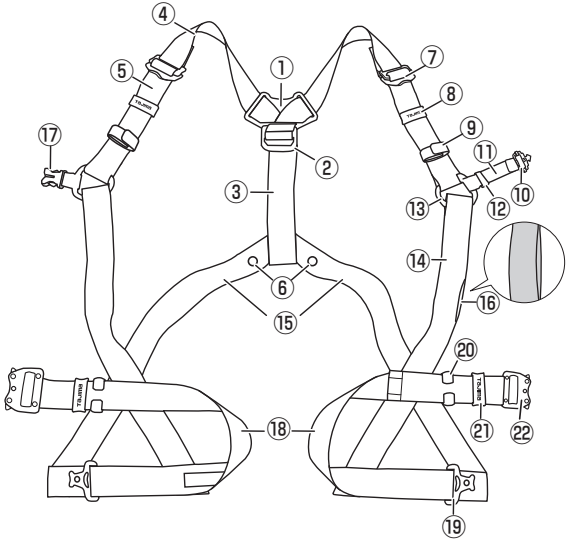
2.ハーネス本体の構造および各部名称

ZAタイプ



①バックパッド
②AR環
③D環
④背中ベルト
⑤バックプレート
⑥肩ベルトA
⑦肩ベルトB
⑧固定用ボタンホック
⑨肩バックル
⑩ベルトストッパー
⑪ロックバンド
⑫胸バックル（凸側）
⑬胸ベルト
⑭胸ベルト用ベルト通し
⑮アクティブリング
⑯腰ベルトA
⑰腰ベルトB
⑱固定用ループ
⑲胸バックル（凹側）
⑳腿ベルト
㉑腿バックル（凹側）
㉒ベルトキーパー
㉓ベルトストッパー
㉔腿バックル（凸側）

ZSタイプ



①バックパッド
②D環
③背中ベルト
④肩ベルトA
⑤肩ベルトB
⑥固定用ボタンホック
⑦肩バックル
⑧ベルトストッパー
⑨ロックバンド
⑩胸バックル（凸側）
⑪胸ベルト
⑫胸ベルト用ベルト通し
⑬アクティブリング
⑭腰ベルトA
⑮腰ベルトB
⑯固定用ループ
⑰胸バックル（凹側）
⑱腿ベルト
⑲腿バックル（凸側）
⑳ベルトキーパー
㉑ベルトストッパー
㉒腿バックル（凹側）

●体重（装備重量）* の制限について

体重は 100kg 以下でご使用ください。
体重が 100kg を超えると墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、安全帯が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。
*体重（装備重量）：体重と装着する全ての物の合計重量

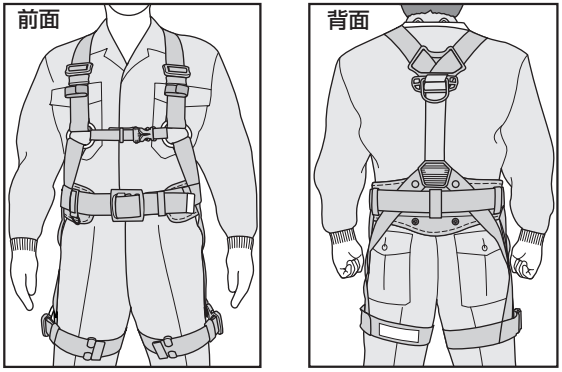
3. 装着方法

ご注意

SEGハーネスは胴ベルトには直接取付けることはできません。必ずタジマの**SEG**胴当てベルトと胴ベルトを組み合わせてご使用ください。

SEGハーネス＋**SEG胴当てベルト**＋**胴ベルト**

〈装着例〉



ハーネス&胴当てベルト対応表

※1.固定用ループに胴ベルトを通し固定
（引掛けガイド内側）

※2.固定用ループに胴ベルトを通し固定
（引掛けガイド外側）

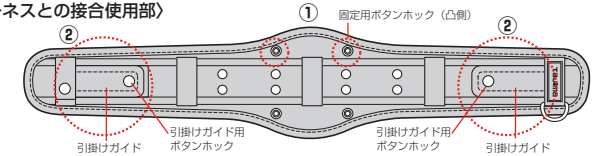
		ハーネス		
		S	M	L
胴当てベルト	GAXW600	○	○	※2
	GAXW700	○	○	○
	GAXW800	○	○	○
	CRX700	○	○	○
	CRX800	○	○	○
	CRX900	※1	○	○

3-1. SEGハーネスと SEG胴当てベルトの取付け方法

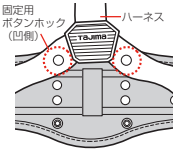
〈注意〉必ずハーネスと胴当てベルトを先に取付けてから胴ベルトを取付けてください。

※イラストはCRXシリーズです。GAXWシリーズも同じ取付け方法です。

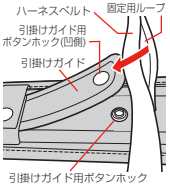
〈ハーネスとの接合使用部〉



①胴当てベルト中央の固定用ボタンホック上側2つ（凸側）とハーネスの固定用ボタンホック（凹側）の位置を合わせ、しっかりはまるように奥まで押し込み止める。



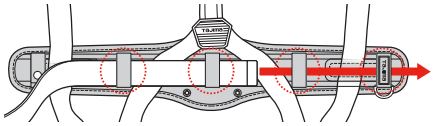
②引掛けガイド用ボタンホック（凸側/凹側）を外し、図のようにハーネスの固定用ループ部を通す。引掛けガイド用ボタンホック（凸側/凹側）を閉じて固定する。反対側も同じように固定する。その際ベルトがよじれないように注意する。



3-2. 胴ベルトの取付け方法

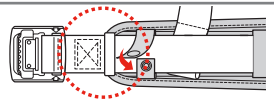
3-1.の方法でハーネスと胴当てベルトを取付けた後、図のように胴ベルトを胴当てのベルトループに通す。この時、ハーネスの腰ベルトBは胴当てベルトの左右真ん中のベルトループの内側に来るようにする。

[ベルトループ数]GAXW600のベルトループは2箇所、その他の胴当てベルトは4箇所あります。



〈注意〉ハーネスの固定用ループと
腰ベルトBの下に胴ベルトは通しません。

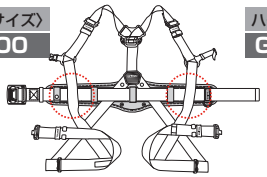
ボタン式ベルトループのボタンを外し、胴ベルトのバックルを通し、最後にボタンを止め固定する。
※安全帯ランヤードの取付け方法は、安全帯ランヤードの取扱説明書をご覧ください。



〈ご注意〉下記製品の組合せの場合、胴当てベルトの「引掛けガイド」は使用せず、胴ベルトを下記位置でハーネスの固定用ループに通します。

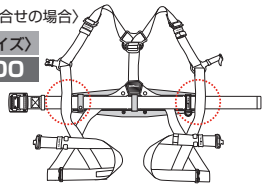
〈対応表※1の組合せの場合〉

ハーネス〈Sサイズ〉
CRX900



〈対応表※2の組合せの場合〉

ハーネス〈Lサイズ〉
GAXW600

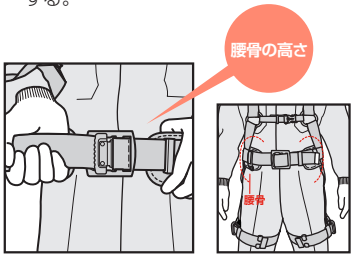


※固定用ループの位置にご注意ください。

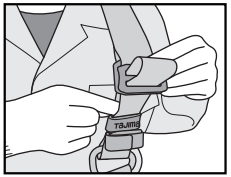
3-3.装着方法

①ハーネスの胸バックル、腿バックル、安全帯胴ベルトのバックルを外した後、リュックを背負うように肩ベルトに腕を通す。この時肩ベルトがよじれないように注意する。

②胴ベルトを腰骨の高さに合わせ、体にフィットするように長さを調整し装着する。

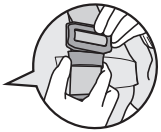


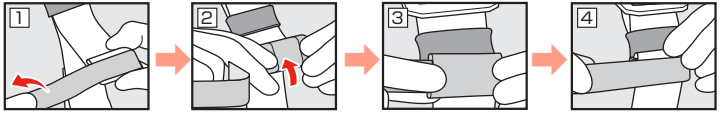
③肩バックルを使い、肩ベルトの長さを調整し、体にフィットさせる。
（調整目安：肩ベルトA/B、背中ベルトが適度に張った状態）



肩ベルトの長さ調節は9ページをご覧ください。

④肩ベルトが緩まないようベルトストッパーを肩バックル下に移動させる。
調整後余った肩ベルトは下の図の手順でまとめ固定する。

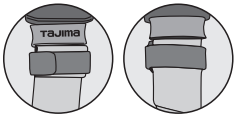




肩ベルトBの先端のロックバンドをはがす

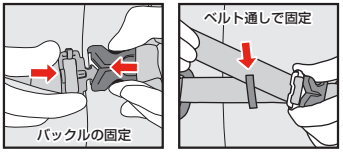
はがしたロックバンドを軸に余った肩ベルトを巻く

ベルトストッパー下まで巻取り、その状態でロックバンドを使ってベルトを固定する。
※ロックバンドの黒面が上になるようにベルトに巻き付け固定する。



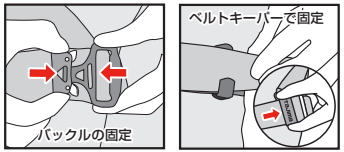
表側　裏側

⑤胸ベルトの胸バックル（凸側）を胸バックル（凹側）に差し込み固定。その後、胸ベルトの長さを調整する。
（調整目安：胴ベルトが適度に張った状態）余った胸ベルトは胸ベルト用ベルト通しに通し固定する。



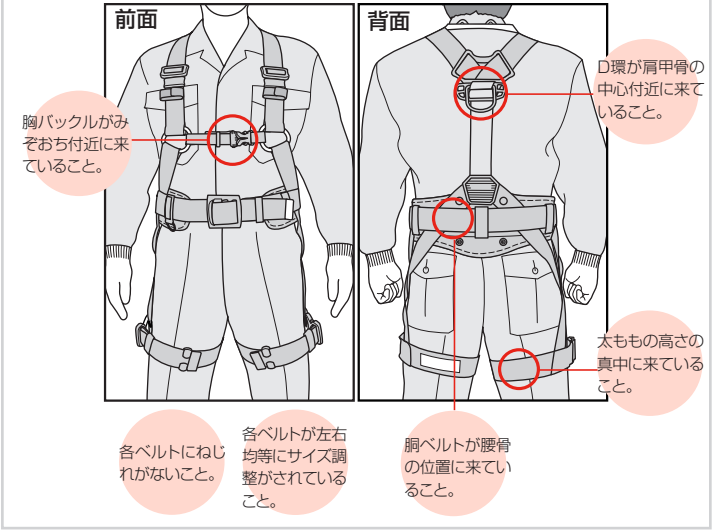
胸ベルトの長さ調節は9ページをご覧ください。

⑥腿ベルトの腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）に差し込み固定。その後に太ももにフィットするように腿ベルトの長さを調整する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。また腿ベルトが緩まないように、ベルトストッパーを腿バックル横に移動させる。



腿ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

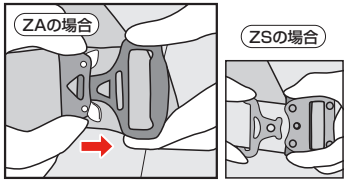
正しい装着例



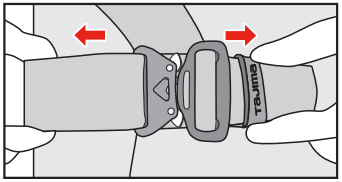
3-4.バックルの使用方法

腿ベルト用ワンタッチバックル

連結する時

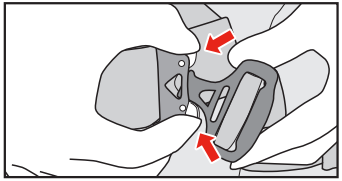


①片方の腿バックル（凹側または凸側）を持ち、反対側の腿バックル（凹側または凸側）の奥に当たるまで差し込みます。



②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに腿ベルトを左右に引っ張り、バックルがロックされていることを確認してください。

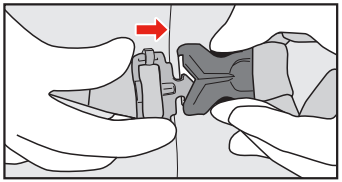
外す時



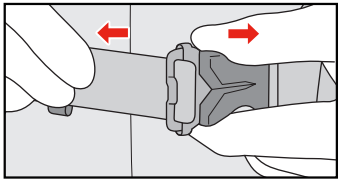
両側のロック解除レバーを同時に押すと腿バックルが外れます。

胸ベルト用ワンタッチバックル

連結する時

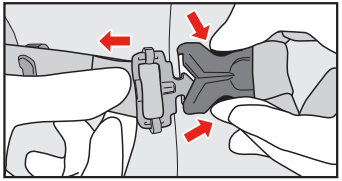


①片方の手で胸バックル（凸側）を持ち、胸バックル（凹側）の奥に当たるまで差し込みます。



②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに胸ベルトを左右に引っ張り、バックルがロックされていることを確認してください。

外す時



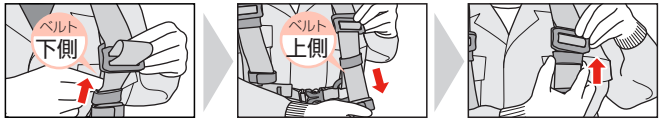
両側のロック解除レバーを同時に押すと胸バックルが外れます。

3-5.ベルトの長さ調節

※イラストはZAシリーズです。ZSも同じ調節方法です。

肩ベルト

ベルトを短くする場合

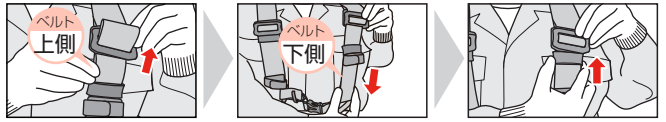


①下側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

②上側の肩ベルトBを矢印の方向へ引っ張り「たわみ」を無くす。

③ベルトストッパーをバックルの下に移動する。

ベルトを長くする場合



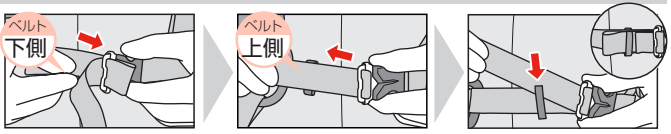
①上側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

②下側の肩ベルトBを矢印の方向へ引っ張り「たわみ」を無くす。

③ベルトストッパーをバックルの下に移動する。

胸ベルト

ベルトを短くする場合



①下側の胸ベルトを矢印の方向に押出して「たわみ」を作る。

②上側のベルトを引っ張り「たわみ」を無くす。

③上側の胸ベルトを「胸ベルト用ベルト通し」に固定し、長い場合は折り返す。

ベルトを長くする場合

①上側の胸ベルトを矢印の方向に押出して「たわみ」を作る。

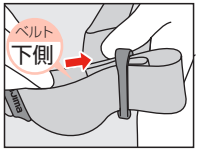
②下側のベルトを引っ張り「たわみ」を無くす。

③上側の胸ベルトを「胸ベルト用ベルト通し」に固定し、長い場合は折り返す。

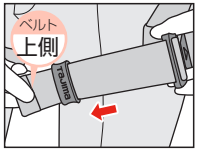
3-5.ベルトの長さ調節 ※イラストはZAシリーズです。ZSも同じ調節方法です。

腿ベルト

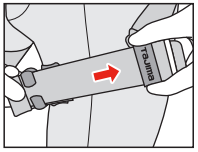
ベルトを短くする場合



①下側の腿ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

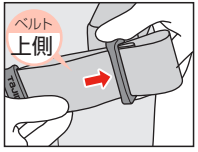


②上側の腿ベルトを矢印の方向へ引っ張り「たわみ」を無くす。

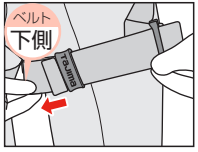


③調節後、余ったベルトをベルトキーパーに通し、ベルトストッパーをバックル側に寄せる。

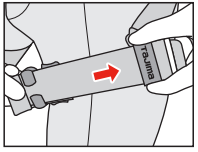
ベルトを長くする場合



①上側の腿ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

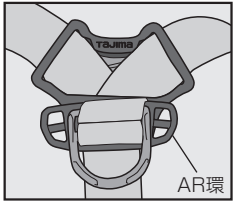


②下側の腿ベルトを矢印の方向へ引っ張り「たわみ」を無くす。

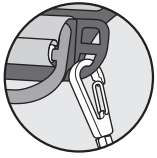


③調節後、余ったベルトをベルトキーパーに通し、ベルトストッパーをバックル側に寄せる。

3-6.AR環の使用方法（ZAのみ）



AR環には安全ロープが取り付けられます。
●安全ロープ取付け穴（1穴）許容重量：1.0kg以下



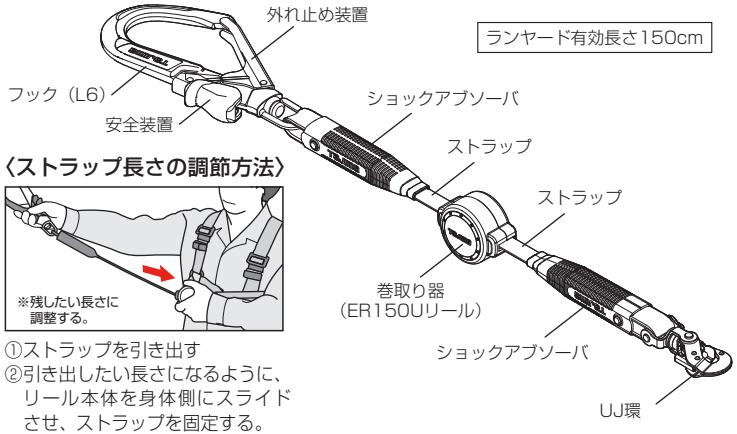
※設定荷重以上の安全ロープ（取付工具を含む）は絶対に取付けないでください。

4. ハーネス用ランヤードの構造及び各部名称

使用するランヤードについて

ハーネス型安全帯に使用するランヤードは、必ずハーネス用ランヤードをご使用ください。ハーネス用ランヤード以外を組み合わせた場合、墜落阻止時の衝撃荷重が「安全帯の規格」に定められた8.0ｋNを超える場合があります。

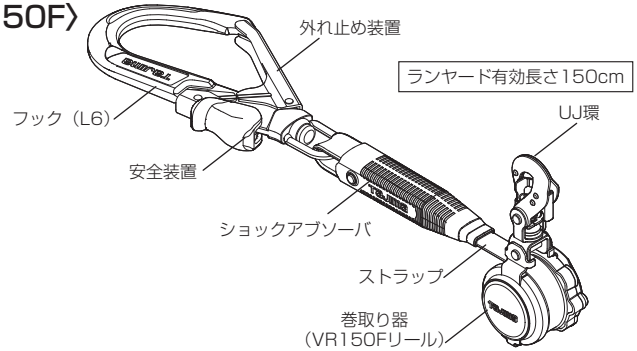
〈ER150U〉



〈ストラップ長さの調節方法〉

①ストラップを引き出す
②引き出したい長さになるように、リール本体を身体側にスライドさせ、ストラップを固定する。

〈VR150F〉

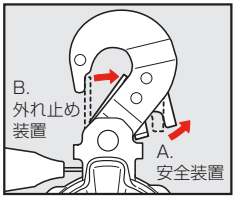


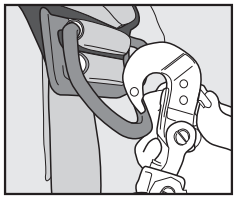
5.ハーネスへのハーネス用ランヤードの取付け方法

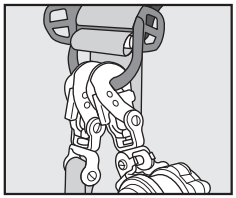
①A安全装置を引き上げて、B外れ止め装置を押して取付環を開口する。

②ハーネス背中分のD環に取付ける。

③ランヤードを2本取付ける場合は図のように取付けます。

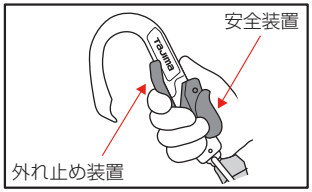






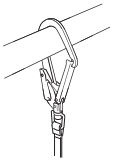
5-1.フックの操作方法

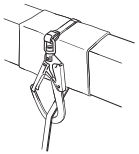
フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。

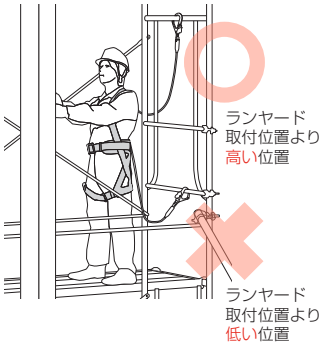


5-2.フックの使用方法

フックはD環（ランヤード取付位置）より高い位置の堅固な構造物等に直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。







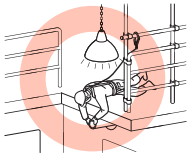
6.必ずお守りください（使用上の注意事項）

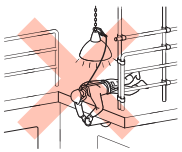
危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

●ランヤードは堅固な構造物に取付けてください。

ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれがなく、墜落阻止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取付けてください。

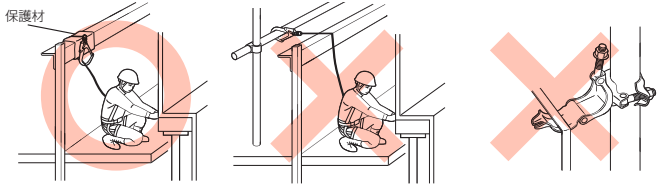
電灯線等弱い構造物に取付けると、墜落阻止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。





●ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。



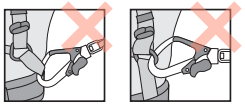
墜落阻止時に鋭い角でランヤードが切断することがあり危険です。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。

●ハーネス型安全帯に使用するランヤードは必ずハーネス用ランヤードをご使用ください。

●ランヤードをハーネスのD環に取付ける際は、ハーネス装着前に取付けてください。装着後に取付ける場合は別の人に確実に取付けてもらってください。

●本品を落下防止目的でご使用になる場合、必ず1本つり専用のハーネス用ランヤードをご使用ください。絶対にU字つりでは使用しないでください。

●アクティブリングや肩ベルトにランヤードは絶対に取付けないでください。



●改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

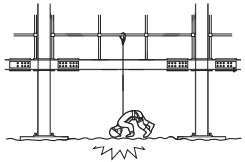
●組み合わせて使用される安全帯の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

●安全帯は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

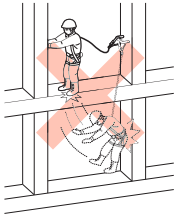
●ランヤードは墜落阻止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取付けてください。

ランヤードは万一の墜落阻止時に人体が床面（または下方の障害物）に接触しない位置に取付けてください。特にストラップ巻取り式の場合は、ショックアブソーバの延尺（最大65cm）を十分に考慮に入れてください。



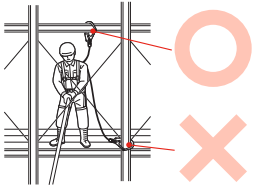
フックの取付位置が低いと床面や下方の障害物に衝突し、けがをするおそれがあります。フック取付位置から身体の最下降点までの距離はショックアブソーバの作動や、ベルトの伸びを考慮するとストラップ巻取り式の場合3.4m になります。（身長 170cm、ランヤード長さ 160cm、ショックアブソーバの作動長さ65cmの場合）

●ランヤードは振り子状態にならない位置に取付けてください。

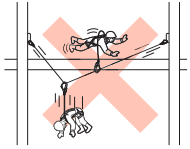


●ランヤードはD環より高い位置に取付けてください。

ランヤードの取付け位置は高い方が落下距離が短くなりますので、できるだけ高い位置に取付けてください。

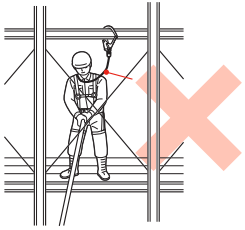


●親綱（垂直・水平）の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

●ランヤードが首の前を通る掛け方は絶対にしないでください。



●一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

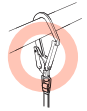
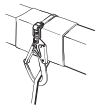
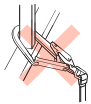
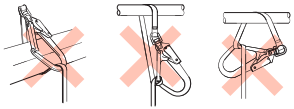
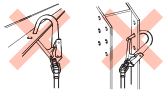
下図のように環類が変更・破損していれば、大きな外力が加わった可能性があります。安全帯全体を廃棄してください。

正常なD環の状態　　一度墜落阻止したD環の状態

上右図のような変形があれば、安全帯全体を廃棄してください。
外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷するおそれがあります。安全帯全体を廃棄してください。

●フックは正しく掛けてください。

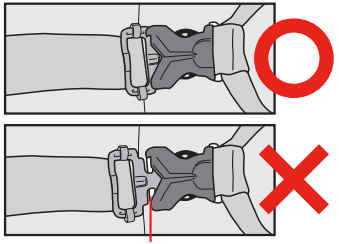
フックは、墜落阻止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないようにご使用ください。（フックの形状と掛け方は一例を示します）

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			（先端掛けは禁止） 

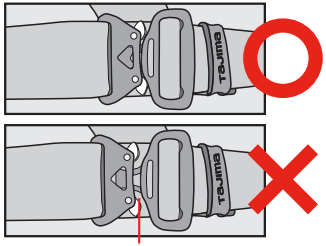
誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材で押されたりしてフックが取付部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

●ハーネスのバックルが確実にロックされていることを確認してください。

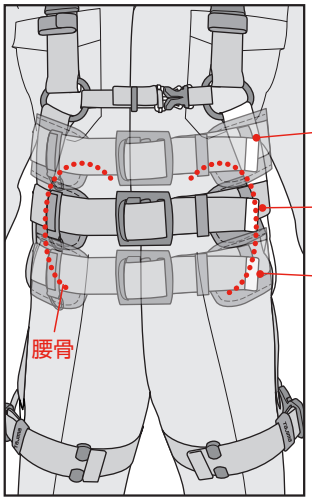
<胸バックル>



<腿バックル>



腰骨の位置で身体にフィットするようにしっかり締めてください。



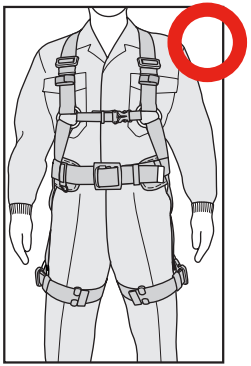
この位置で墜落すると、内臓圧迫のおそれがあります

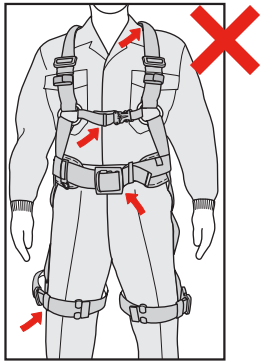
正しい位置

この位置で墜落すると、足元に抜けて事故のもとになります

●必ずベルトの長さを体にフィットするように調節してご使用ください。

ベルトを緩めた状態で装着していると、墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、体が損傷したり、ハーネスが体から抜けて重大な事故につながる可能性があります。また作業時に突起物などに緩んだベルトが引っ掛かり転倒する恐れがあります。





●溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

●⚠雨の日は感電に注意してください。

●安全帯は-10℃～50℃の範囲で使ってください

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。
なお、安全帯の使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、巻取り器のロック装置が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

⚠注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

●安全帯に体重を掛けて作業をしないでください。
万一の墜落阻止を目的に使用する安全帯です。

●丁寧に扱ってください。
ランヤードを引きずりますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。使用しない時、ストラップ巻取り式タイプについてはストラップを巻取り器に収納してください。

●ハーネス、ハーネス用ランヤード、胴当てベルト、胴ベルトを組み合わせて使用する場合は、当社製品を組み合わせてご使用ください。
異なるメーカーのものを組み合わせて使用すると必要強度や機能が得られない場合があります。

●ハーネスと胴当てベルトは同じサイズのものを組み合わせて頂くことを推奨します。

●VR150Fは急移動でロックがかかることがありますのでご注意ください。

●墜落阻止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋へ入れてください。

●安全帯は屋外に放置しないでください。
ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

7. 点検と廃棄の基準

安全帯および安全帯関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

始 業 点 検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。
点検後地上で安全帯を装着し、異常のないことを確認してください。
定 期 点 検：使用する人もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。
異常時点検：作業中安全帯に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

●安全帯点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。
（このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください）

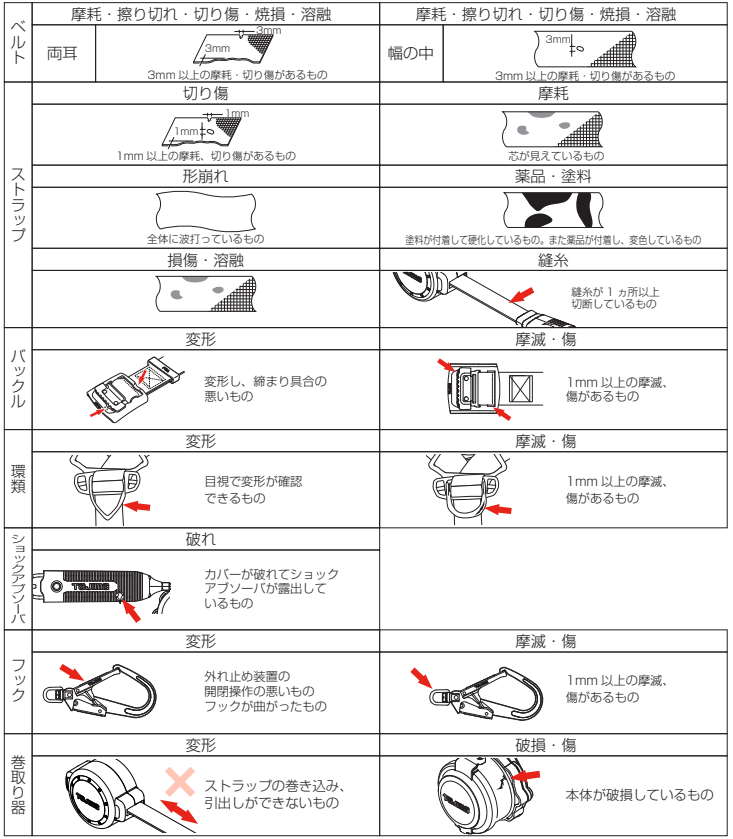
○: 異常なし
×: 異常あり
年　月　日

点検項目				廃棄基準	判定
ハーネス	ベルト	両　耳	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		全　体	薬品・塗料	3mm 以上付着しているもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		縫製部	縫糸	1 ヵ所以上切断しているもの	
	バックル		変形	締まり具合が悪いもの	
				リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
			摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
				リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
				ベルトの噛合部が摩滅しているもの （正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの）	
			錆	全体に錆が発生しているもの	
			ばね	折損、脱落しているもの	
	環類		変形	目視で確認できる変形のあるもの	
			摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
			錆	全体に錆が発生しているもの	
	その他			割れ、亀裂のあるもの	
胴ベルト	ベルト	両　耳	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		全　体	薬品・塗料	3mm 以上付着しているもの	
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの	
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの	
			先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの	
		縫製部	縫糸	1 ヵ所以上切断しているもの	

点検項目			廃棄基準	判定
胴ベルト	バックル	変形	締まり具合が悪いもの	
			リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
			リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
			ベルトの噛合部が摩滅しているもの （正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの）	
		錆	全体に錆が発生しているもの	
		ばね	折損、脱落しているもの	
ランヤード	フック	変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの	
			リベットのカシメ部にガタつきがあるもの	
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
			リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	
		ばね	折損、脱落しているもの	
	巻取り器	変形	ストラップの巻き込み、引出しができないもの	
		取付ねじ	巻取り器の取付ねじが脱落しているもの	
		破損・傷	巻取り器が破損しているもの	
	ストラップ	摩耗・擦り切れ	芯の露出、また 1mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			使用開始から 2 年が経過しているもの	
		切り傷	芯の露出、また 1mm 以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融	芯の露出、また 1mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
		縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの	
	ショック アブソーバ	薬品・塗料	薬品が付着したもの	
			薬品により変色・溶融個所があるもの	
			塗料が著しく付着して、硬化したもの	
		切り傷	カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの （テープなどを巻き付けないでください）	
		擦り切れ	両端の環部のベルトが著しく擦り切れているもの	
		衝撃荷重	大きな衝撃荷重を受け作動したもの	
	環類	変形	目視で確認できる変形のあるもの	
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	

1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

安全帯の廃棄基準の一例



8. 保管と手入れのしかた

●安全帯は次のような場所で保管してください。

①直射日光に当らない所。
②風通しがよく、湿気のない所。
③火気・放熱体などが近くにない所。
④腐食性物質を置いていない所。
⑤塵埃の少ない所。
⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。

●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

●ベルト・ランヤードに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。

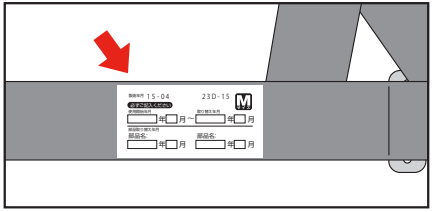
●フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。

9. 交換の目安（耐用期間）

使いかたによって異なりますが、交換の目安としては、ランヤード部は使用開始年月より2年、ハーネス本体・ベルト部は3年くらいを目途としてください。ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えてください。

●使用を開始した年月を腿ベルト裏面に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（右図参照）。

●ランヤード部などを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。



10. 性能

項目	「安全帯の規格」
肩・背中・腰・腿・胴ベルト	15.0kN 以上
D環	11.5kN 以上
肩/腿ベルト用バックル連結部	6.0kN 以上
胴ベルト用バックル連結部	8.0kN 以上
ハーネス本体	11.5kN 以上
衝撃吸収性及び強さ	重さ85kgのトルソーをランヤード全長で自由落下させて、トルソーを保持すること。 衝撃値は、8.0kN以下。 落下後のランヤードとトルソーのなす角度は30°以下。

11.お客様相談窓口

この取扱説明書の内容がおわかりになりにくいときや、製品の取扱いについてご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口にお問い合わせください。

株式会社TJMデザイン
本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3
0120-125577 www.tajimatool.co.jp

54807
SZ15069000